

第38回 法人会全国青年の集い福井大会の報告

令和6年11月8日(金)に第38回法人会全国青年の集い福井大会が福井県越前市で開催されました。1800名を超える青年部会員が現地に集結し、当会からは柚友部会長が参加しました。

記念講演では、元フジテレビアナウンサーでフリーアナウンサーの笠井信輔氏が、「足し算で生きる〜がんステージ4からの生還〜」と題して講演されました。フジテレビに入社後、「とくダネ!」のキャスターを20年務め、東日本大震災の取材では現地に1か月ほど滞在。フジテレビを退社しフリーアナウンサーになった2か月後に「悪性リンパ腫」という血液のがんが判明。4か月半の入院、抗がん剤治療で「完全寛解」となり仕事復帰。この波乱万丈な人生や闘病生活を振り返り、引き算の縁から足し算の縁にをテーマに講演をした。また幕末の志士「橋本左内」が著した啓発録の中の「立志」にちなんで、アナウンサーになるため、どのように志を立て、どのような学生生活を送ってきたかなどについて話し講演を締め括りました。

大会式典は、板倉大会会長の開会の辞に始まり、主催者である全法連青年部会連絡協議会平良会長、全法連小林会長の挨拶に続き、来賓の国税庁課税部長、福井県副知事、越前市長から祝辞を頂きました。

その後、前日に行われた租税教育活動プレゼンテーション、そして健康経営大賞の審査結果発表があり、租税教育活動部門で最優秀賞を受賞した東京都連立川法人会青年部会、健康経営大賞部門では東京都連世田谷法人会青年部会、石川県連金沢法人会会員の株式会社金沢シールの事例発表がそれぞれ行われました。

特に、租税教育活動事例では、最優秀賞を受賞した立川法人会が以下の通り発表した。「均一性・継続性・網羅性」を理念に掲げ、講師によってバラツキのない授業を継続的に管内すべての小学校での開催を目標に活動。立川モデルとして2010年の栃木大会で最優秀賞の評価を得て、令和5年度まで累計70,424人が受講した。しかし立川モデルの長年の課題として租税教室で得た知識を忘れず、税金への理解性を向上させるには、アフターケアが必須であり、授業の記憶を定着化させるアイテムとして「100万円メモ」を児童に提供。メモの蓋に表示したQRコードから、租税教室の動画や税金に関するクイズ、各税目をそれぞれ関連する職業の部会員が解説した動画などを提供しコンテンツは定期的に更新。「覚える」より「忘れない」モデルへの発展を目指し、従来の理念に「理解性・反復性」を加え5つの柱を新たに掲げた進化系「シン立川モデル」として今後も活動を進めたい。

式典の最後は、福井県を代表する幕末の志士「橋本左内」が書いた啓発録の中の五訓のひとつ「志を立てる」の精神を胸に、上口実行委員長の福井大会宣言で締めくくられました。

今回の青年の集いに参加して、法人会青年部会の活動の柱である租税教育活動の更なる充実と現在もう1本の柱となるべく展開している健康経営の情宣と推進をしていくことが、法人会青年部会、ひいては徳島県全体の活性化につながるの思いを新たにしました。